

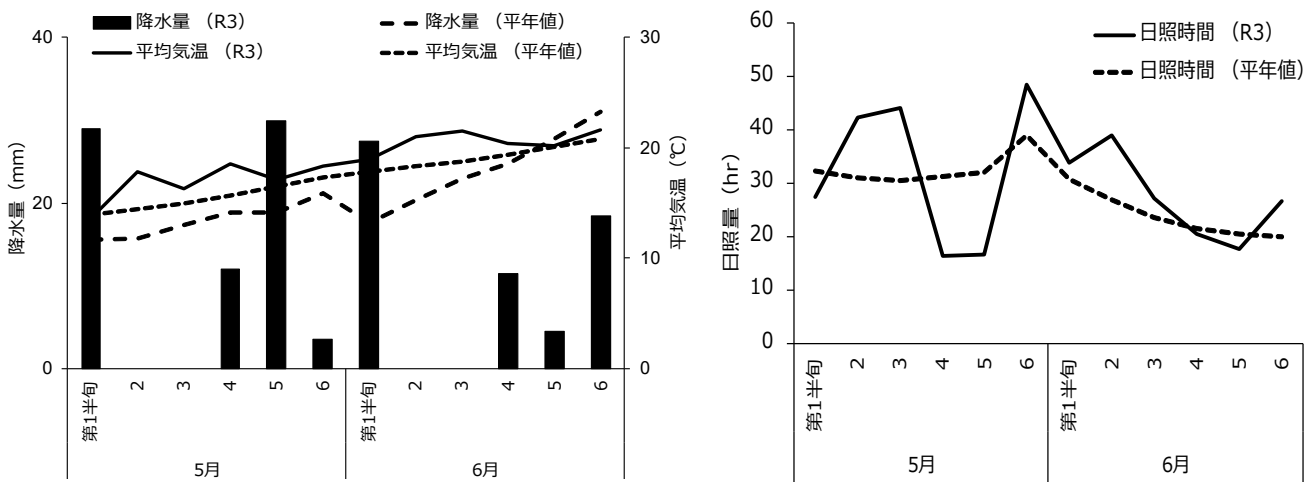
仙台稲作情報2021（第5号）

宮城県仙台農業改良普及センター TEL：022-275-8410 FAX：022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail：sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷中干しは、幼穂形成期前までに終わらせましょう。
- ▷病害虫防除は、防除適期を逃さず計画的に実施しましょう。
- ▷追肥は、稲の葉色や生育ステージを確認して実施しましょう。

1 気象経過



2 管内の生育状況（7月1日の調査結果）

(1) 移植栽培（ひとめぼれ）

- ・草丈は52.1cm（管内平均），茎数は560本/m²（同）で前年及び平年を上回る生育となっています。葉色（GM値）は39.6で、この時期の目安（40前後）の範囲となっています。
- ・幼穂長調査で、「ひとめぼれ」の幼穂は確認されませんでした。（「つきあかり（早生）」で幼穂長1.25mmとなっており、幼穂形成始期に達しています。）

表1 7月1日の調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)		
				本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区蒲生	5月15日	50.5	110	107	462	110	108	39.8	-2.6	-2.6
	北部平坦	大郷町鶉崎	5月12日	50.1	108	106	572	83	120	38.2	-7.2	-2.6
	西部丘陵	仙台市泉区福岡	5月13日	55.8	109	106	647	134	120	40.7	-3.2	-2.6
	管内平均			52.1	109	106	560	109	114	39.6	-4.3	-2.6
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区荒井	5月11日	52.0	86	100	584	99	118	41.4	-1.9	-0.5
だて正夢	北部平坦	大郷町土橋	5月14日	53.2	106	113	411	83	105	38.8	-5.4	-3.5
	仙台湾沿岸	仙台市若林区三本塚	5月18日	54.0	106	113	487	99	105	44.6	+0.1	-3.5
	管内平均			53.6	106	113	449	91	105	41.7	-2.7	-3.5
つきあかり	北部平坦	大郷町山崎	5月14日	73.7			397			44.8		
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区七郷	5月25日	39.8			403			46.1		

※平年比差は、平成30年から令和2年の3年平均値との比較

(2) 湛水直播栽培

草丈は39.7cm（前年比86%）、茎数は359本で（前年比67%）ですが前回調査より倍増しており、概ね順調な生育となっています。

表2 7月1日の調査結果

品種	地帯	場所	播種日	草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		葉色値 (GM値)	
				本年	前年比 (%)	本年	前年比 (%)	本年	前年差
ササニシキ	北部平坦	大和町落合桧和田	5月3日	39.7	86	359	67	40.6	-5.9

※調査ほ場は令和2年度からの設置のため、平年値はありません。

3 本田管理

移植栽培

(1) 水管理

- ・中干しは遅くとも幼穂形成期前に終了し、終了直後は走り水程度として徐々に湛水状態に戻しましょう。その後は出穂期まで飽水管理とし、土壌を酸化的に保ち、根の活力を維持しましょう。
- ・幼穂形成期から減数分裂期に、日平均気温20℃以下が長期間続く場合や最低気温17℃以下の場合には障害不稔が発生する危険性が高くなりますので、できるかぎり深水管理を実施しましょう。

※幼穂形成期：幼穂長1～2mm 減数分裂期：幼穂長30～120mm

(2) 病虫害防除

①いもち病

- ・箱施用剤の効果が低下し始めるとともに、葉いもちの感染好適条件となりやすい時期です。上位葉で発病した葉いもちは穂いもちの伝染源になりますので、ほ場を巡回し、早期発見に努めましょう。
- ・特に、窒素過剰により稲が軟弱徒長気味で葉色が濃いほ場は注意が必要です。
- ・7月1日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予報されています。また、病虫害防除所による発生予察情報において葉いもちの発生量は「やや多い」と予報されています。葉いもちの発生に注意し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・穂いもちの予防剤は出穂30～5日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。

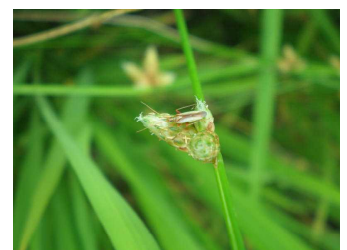


進行型病斑

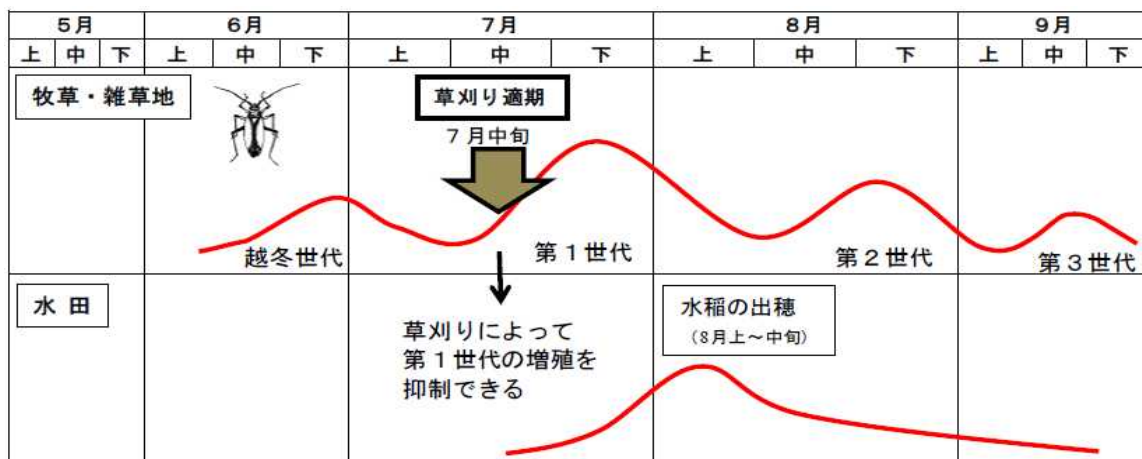
【参考】BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件（葉いもちの大量感染に好適な気象条件）の推定結果は、病虫害防除所のサイトをご覧ください。6月28～29日には、県南を中心に好適条件が出現しています。 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

②斑点米カメムシ類

- ・イヌホタルイ、ノビエ等の水田雑草は、斑点米カメムシ類の水田への侵入を助長します。残草がある場合は、幼穂形成期前（7月上旬）までに適切な除草剤を散布して防除しましょう。（除草剤を使用する際は、収穫前日数に注意してください。）
- ・水田周辺にある牧草地や雑草地では、斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、7月中旬までに草刈りを行いましょ。特に、本年は第1世代の成虫発生盛期がやや早くなる（7月11～15日）と予想されますので、刈り遅れとならないように注意しましょう。
- ・水稲の出穂前後の畦畔の草刈りは斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稲が出穂する10日前までに行いましょう。

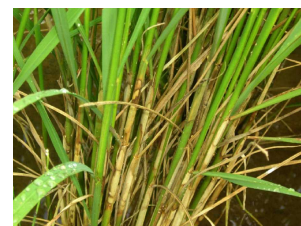


イヌホタルイの穂に誘引されたアカスジカスミカメ



③紋枯病

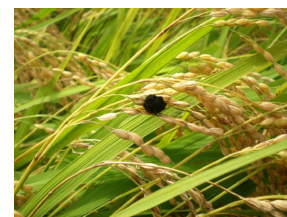
- ・高温で降雨日数が多いと株間の湿度が高まり、幼穂形成期頃から発生が目立つようになります。出穂期前からの発病は被害が大きくなるので、発生に注意しましょう。
- ・前年は発生が目立ちました。発生が多かったほ場では多発のおそれがありますので、穂ばらみ期の水面施用剤、穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤(液剤、水和剤、粉剤)がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。



病斑

④稲こうじ病

- ・穂ばらみ期に低温で降雨日数が多い条件下で発生しやすくなります。
- ・ほ場に残った菌核などが翌年の伝染源となるため、前年に多発したほ場では注意が必要です。
- ・銅剤は予防効果が高く、出穂20～10日前が散布適期です。



発病粒

(3) 追肥

- ・葉色は今後低下することが予想されます。ほ場をよく観察し、適切な追肥を行い穂揃期の葉色維持に努めましょう。
- ・追肥の効果、追肥時期の葉色、品種ごとの時期及び施用量については下表を参考にしてください。
- ・ほ場により生育が異なるので、幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。
- ・追肥後一時的に稲体窒素濃度が高くなると、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので、いもち病の発生に注意しましょう。
- ・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合または復元田の場合は、倒伏が懸念されるため、原則として追肥は行いません。
- ・「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移しますので、追肥をする際は葉色に注意しましょう。

表3 穂肥窒素の施用時期と生育要因への影響

施用時期	生産要因への影響				
	穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏
幼穂形成期 (幼穂長1~2mm,出穂25~20日前)	○	◎	○		×
減数分裂期 (幼穂長30~120mm,出穂15~10日前)		○	◎	◎	

◎効果高い ○効果あり ×悪影響あり

表4 生育ステージにおける葉色の目安（主な品種） ※ 葉緑素計（SPAD値）

品 種	幼穂形成期 (出穂25～20日前)	減数分裂期 (出穂15～10日前)
ひとめぼれ	38～40	35～37
ササニシキ	34～36	32～34
まなむすめ	35～37	36～38
だて正夢	40～42	37～39
金のいぶき	33～35	30～32

表5 穂肥の標準的な窒素施用量の目安

品 種	窒素施用量（成分量/10a）	
	出穂25～20日前 (幼穂形成期)	出穂15～10日前 (減数分裂期)
ひとめぼれ 金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	—	1.0～1.5kg
つや姫 まなむすめ	2.0kg	—
だて正夢	— (茎数が少ない場合は1kg)	2kg (幼穂形成期に1kg追肥した場合は1kg)

湛水直播栽培

(1) 中干し

湛水直播栽培では、播種深度が浅く、稲体が株元から倒れる「転び型倒伏」が発生しやすいので、徹底した中干しが必要です。目標穂数の80%が確保された頃を目安に中干しを実施し、土壌を硬化させ株元の支持力を強化させましょう。

(2) 葉いもち

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が高く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすい傾向があります。ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。

(3) イネツトムシ

幼虫によるツト（苞）が散見されます。被害が大きく防除の対象となるのは第2世代幼虫期で、通常は8月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにしましょう。

4 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（7/1 仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- 向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。
- 向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。

■農薬危害防止運動実施中（令和3年6月1日から令和3年8月31日まで）

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。
- ・最新の農薬登録情報は、農林水産省消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

次回の稲作情報第6号は、7月9日に実施する生育調査の結果をもとに7月12日頃の発行となります。